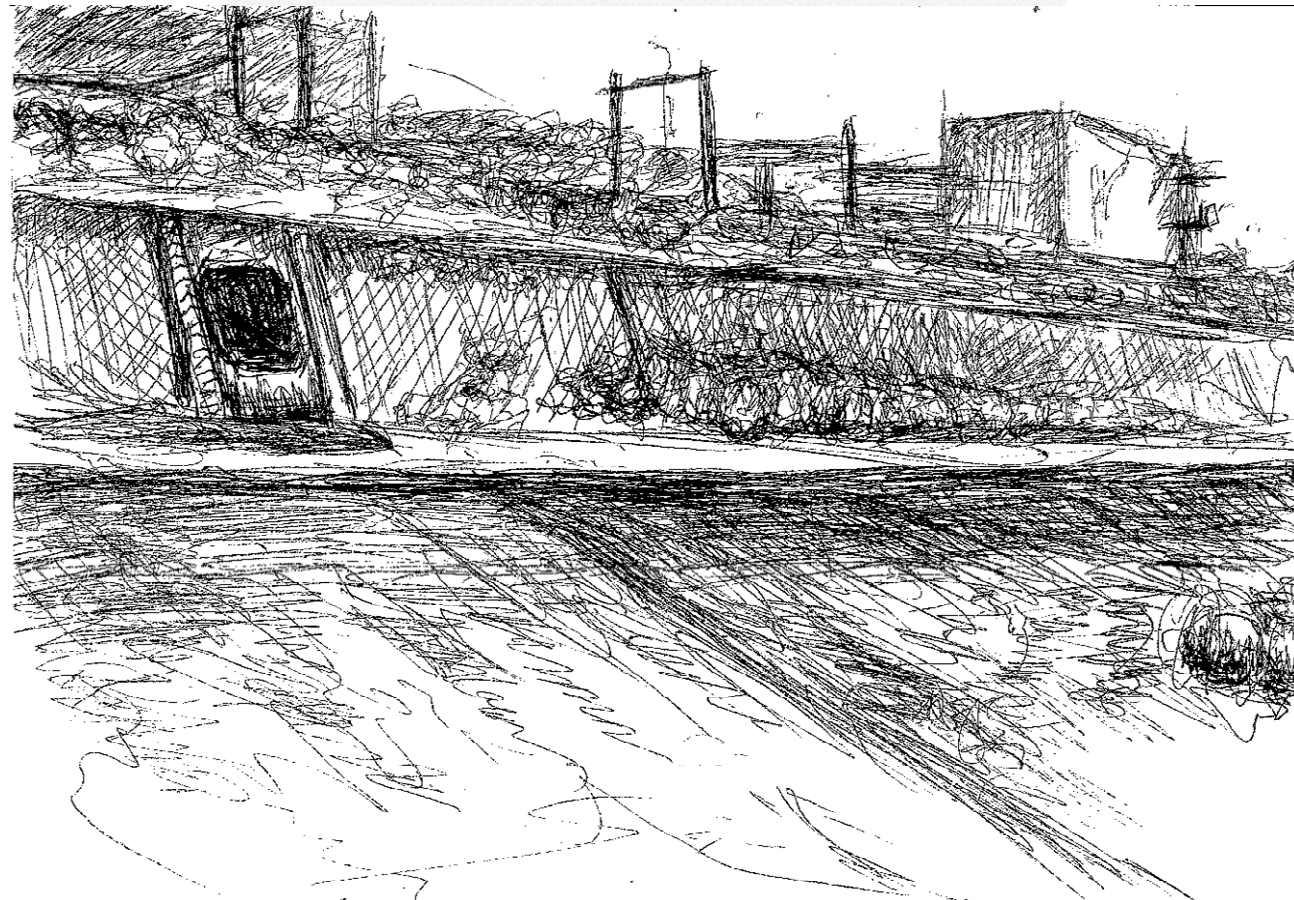


# いたちかわらばん

通刊 87 号 鮪川・狹川 / 川原番・瓦版 '21 秋号



【ペン画 宗森英夫】

「いたち川と柏尾川の合流点」

## 柏尾川

柏尾川は境川の左支川(しせん)、いたち川は柏尾川の左支川でこれらの河川流域を境川水系と呼んでいます。戸塚区で瀬谷区から流れ出る阿久和川と港南区からの平戸永谷川と合流し柏尾川になり、その下流で舞岡川、いたち川、砂押川が流れ込み藤沢駅付近で境川に流れ込み江の島で相模湾に流れ出る河川です。

柏尾川の桜は江戸時代から昭和初期まで戸塚から大船までの両岸に植えられた桜並木で桜の名所でしたが戦争や河川改修で伐採され現在は戸塚駅から金井公園間で楽しむことができます。

1966 年頃は、大船駅から戸塚駅間の柏尾川沿いには、水田と養魚場が連なっていました。近年水質浄化が進むとアユ、ボラが生息してきました。近年水質浄化が進むとアユ、オイカワ、モツゴ、アブラハヤ等のほかナマズやウナギなどもどってきました。いたち川はいち早く蘇った河川として全国的に知られていますのでこの思いを大事にして散策したいものです。

(水・人・子)

## 石仏・石塔歴史調査研究会講演開催される！



いたち川流域の「石仏・石塔巡り」講演が3月6日(土)に桂台地域ケアプラザで開催されました。桂台地域の人々が中心となって「石仏・石塔巡りマップ」の完成を記念して開催されました。マップの概要として鎌倉古道の出発点となっている当地域には庶民の生活に関わる道標、石仏、石塔を紹介しております。

### 1. 供養塔

供養塔は死者の菩提を弔うために造立された石仏で、旅の途中に命を落とした旅人等供養塔等道祖神、馬頭観音などが紹介されています。

### 2. 民間信仰の石仏

庶民の信仰によって作られた、祠、石塔や道標等を紹介しています。

その他に江戸時代暦を表示しており、マップは「桂台地域ケアプラザ」「さかえ区民活動センター」で配布しています。

「いたち川流域の石仏・石塔巡りマップ」を入手しましたので、暖かくなったら緊急事態宣言も解除されているでしょうから、石仏巡りに行きたいと思います。益々、いたち川に興味を持つようになりました。

TW さんからの便り

## ☆いたち川分水嶺ウォーキング☆

いたち川本川と右支川(瀬上沢)との分水嶺となる東上郷町と瀬上市民の森の尾根を歩いて、富士山の景観を楽しんでみませんか。

日時: 令和4年2月15日(火)

天神橋バス停(10:00)→バス移動(船09)→みどりヶ丘下車→東上郷第一公園→馬の背休憩所→馬頭の丘休憩所→見晴台休憩所→梅沢山休憩所→ヘイケホタルの湿地→自然観察センター→長倉町バス停(解散予定)

\*雨天中止。中止の場合は、前日ご連絡します。

集合場所: 天神橋バス停

## 読者からのたより

いたち川瓦版ありがとうございます、いつも興味深く拝読しています。

草花も咲きだし春らしい暖かい日が続いていますがコロナ禍で外に出るのも気が引けますが運動不足を解消するため防備をしてウォーキングをしています。

「いたち川かわらばん」を見ていると故郷の川を思い出します。

故郷の川は愛媛県大洲市を流れる肱川は1級河川でダムができてない時代には清流が流れて深いところは渦がまいていました、モクズカニが沢山取れていてバケツ一杯取ってくると、茹でたてを好きなだけ食べていたのが忘れられない美味しいカニの味でした。子供の頃は肱川で一日中遊び泳いでいました。流れにそって行けば向岸にたどり着くかは身体で覚えてきます。

度々洪水に見舞われている事で、ダムを建設して高い堤防が出来た事で、水の流れが滞のようになってしまい時代も変わってしまいました。

3年前頃の豪雨の時、急遽、ダムの水を放流したことで甚大な被害が出たニュースがあり心が痛む故郷の川です。

MK さん

集合時間: 10:00

参加費: 100円(保険料等)

持ち物: 飲み物、雨具、マスク着用

参加人数: 20名(先着順)

参加要領: 参加希望者は、葉書、メール、FAXで

住所・氏名・電話番号を明記の上、

令和4年1月31日(月)までに下記に応募して下さい。(当日消印有効)

応募先: 〒247-0005 栄区桂町303-19

(電話) 894-8161 (FAX) 894-9127

(アドレス) sa-kikaku@city.yokohama.jp

栄区役所区政推進課企画調整係 担当 佐藤

※内容については、和久井(045-892-6767)まで

## 発行: 狹川 OTASUKE 隊 (いたちがわおたすけたい)

OTASUKE 隊事務局: 栄区役所区政推進課企画調整係

〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19  
TEL 045-894-8161 FAX 045-894-9127

栄土木事務所下水道・公園係

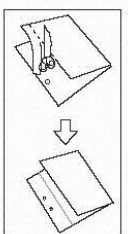
〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-6-1  
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421

(お便り・お問い合わせはこちらまで)

発行年月  
2021年11月

通刊 87 号

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



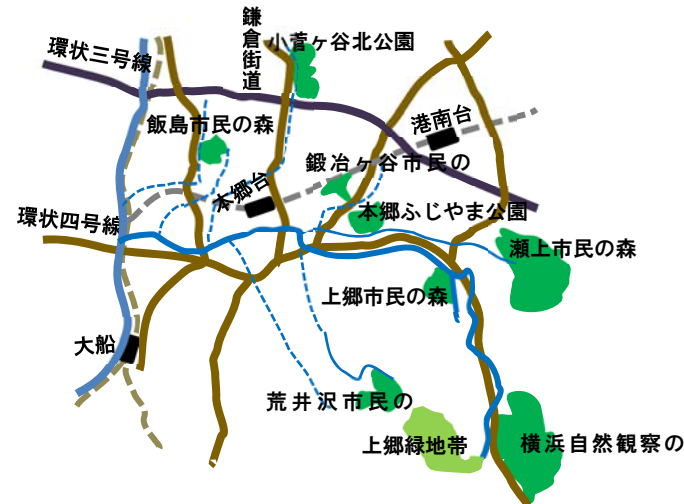
「いたち川の水源地」市民の森・公園を紹介 第1弾!!

水源地となっている、市民の森・公園の観察コースや見どころを順次紹介いたします。前回までのマップ紹介と重複する部分があると思われるかもしれませんがご了承願います。

栄区の緑地は全域の約4割を占めております。その緑地は、「市民の森」や「公園」「緑地」のほか栄区の周辺を取り囲んでいる緑地「横浜自然観察の森」磯子区「水取沢市民の森」金沢区「金沢市民の森」「金沢自然公園」「鎌倉市の自然保護地」に取り囲まれています。

いたち川の水源地はこれらの緑地から自然に水がしみ込んで湧き出たものと思われまます。いたち川の流域面積は約1388haで栄区面積1852haの約7割を占めています。(流域面積には周辺地区の面積も一部含まれています)

全市の中でも、指定された年月も「飯島市民の森」が1番早く2番目が「上郷市民の森」で市内の「市民の森」指定のモデルとなっています。

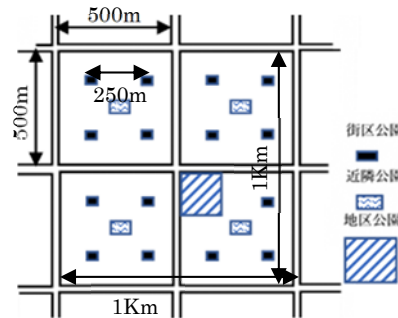


\*公園の種類

都市公園は都市計画の施設として法で定められています。地方公共団体は政令で定め設置及び規模に関する技術的基準に適合するように定められています。

○都市公園の種類 (都市公園法に定められている)

《住区基幹公園》



- ・街区公園  
誘致距離 250mの範囲で面積 0.25ha を標準としています。
- ・近隣公園  
誘致距離 500mの範囲で面積 2.0ha を標準としています。
- ・地区公園  
誘致距離 1kmの範囲で面積 4.0ha を標準としています。

《都市基幹公園》

- ・総合公園  
住民の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等を目的とした公園で面積は 10~50ha を標準としています。
- ・運動公園  
運動を目的とした公園で面積 15~75ha を標準としています。

《大規模公園》

- ・広域公園
- ・レクリエーション都市

○市民の森

民地を含め広く緑を守るために、横浜市独自の緑地を保全する制度で、緑の環境をつくり育てる条例、市民の森設置事業実施要綱による制度です。

○緑地

都市緑地保全法 (現在の都市緑地法) によって都市地域の緑地激減に伴い緑地を保全するために定められました。

\*栄区の緑地

《近隣公園》

飯島南公園、いの山東公園、笠間中央公園、鍛冶ヶ谷西公園、桂山公園、千秀公園、中野町左近公園、本郷中央公園、矢沢なかよし公園 9箇所 9.0ha

《地区公園》

金井公園、本郷ふじやま公園 2箇所 13.7ha

《都市緑地》

上郷1~9号緑地、小菅ヶ谷二丁目緑地、長者ヶ久保1号、5号緑地、本郷台二丁目、三丁目緑地 13箇所 16.8ha

《風致公園》

小菅ヶ谷北公園 1箇所 9.9ha

《市民の森》

飯島市民の森、上郷市民の森、瀬上市民の森、荒井沢市民の森、鍛冶ヶ谷市民の森 5箇所 71.3ha

いたち川の水源地となっている緑地

- \*5箇所の市民の森
- \*地区公園 本郷ふじやま公園
- \*都市緑地 上郷緑地
- \*風致公園 小菅ヶ谷北公園

日本でも最初に緑地を保全するために民地を“市民の森”にする条例を定め、栄区がその最初であることを紹介しています。次回からは各市民の森・緑地の水源地等を順次紹介してまいります。(水・人・子)

故郷の川の思い出

私は、熊本の川尻町、外城(とじょう)という所で生まれ育ちました。家の前は県道でその前は加勢川という川です。昔は河尻と云われ、海に向かってすぐの所にあり満潮、干潮があり、家の前は船着き場でとても賑わっていました。この川は阿蘇山の水が熊本市内中心部にある水前寺公園、江津湖を流れ下り加勢川となって流れてきています。川尻は加藤清正が川の改修し船着き場を作り、その石垣や護岸の階段は現在もそのまま残っています。清正の河川改修により流れの激しい河が穏やかな川に変わり始めた事から河尻が川尻に変わりその事は河尻神社に残っています。2008年頃、清正が軍港、物流の拠点として発展させ天草より(天草船)木材や薪を運んで来ていました。外城には小さな城がありました。清正の息子忠広が藩命により潰され、その記念碑が故郷の家の横にあります。このような歴史から川尻と外城という呼び名が残りました。

生家は加勢川の護岸にあり当時は川底が見えるきれいな川で、河口に近くハヤやビント(タナゴ)ナマズ、鯉、サヨリ、エビ(手長エビなど数種)、カニ数種、小鮒、モズクカニ等、沢山生息しており、色々方法を覚え(竿や針)釣りを楽しんでいてナマズは増水するとよく釣れ、上流には鯰(ナマズ)という地名があるほどです。エビ釣りは初夏の風物詩として定着していました。加勢川は天然プールの様にきれいだったので船着場の階段で母や近所の皆が洗濯板を使い洗濯、食器洗いをしておりとても良い社交場になっていました。

時々上流の水門を開けると、ホテイ草(地元名:タワンナギ)がたくさん流れて来るので、これを集めて筏(イカダ)を作り自分たち子供5、6人で乗り川下りを楽しんでいました。また目の前に架かる鹿児島本線の鉄橋があり、あまりできる人はいませんでした。蒸気機関車が来て私達が居るのを見付けると機関士さんが橋の手前で普段より多く4、5回汽笛を鳴らしていました。危険な事でしたが今では考えられない程、のどかな時代でした。

また、川尻にはもう一つ緑川があり、その川で現在では危険区域に指定されるようなところですが主に堰(セキ)で遊んだりしていて、当時は危険という認識も有りませんでした。この堰は小さなダムのような所でしたので船が飛び跳ねていて六尺禰(ろくしゃくべこ)を伸ばして使い捕まえていました。流れの緩やかな処では手長エビがたくさん捕れていて、30分位でバケツ一杯になるほどでした。当時、蛇行した箇所がありそこに白い砂浜が形成され輝くようでした。

1950年、朝鮮戦争があり米軍(国連軍)のF-84戦闘機にトラブルがあったのか、板付基地に戻れずこの白い砂浜に胴体着陸しました。すぐに見に行き、この時初めて本物の戦闘機を目の前で見ました(12歳)。

昭和39年に河川法が出来、河川改修、ダム、風水害等で砂浜や川の形も急変し、川は汚れ魚の種類も少なくなりました。

いたち川は故郷の川に似たところもあり昔の事が思い出されます。